

9月定例会

平成28年度決算認定 …… 2

一般質問 5人が登壇 …… 7

議員発議

道路整備予算求める…………… 13

郡議員総会

太陽光発電施設の課題提起… 14

議会だより

お

お

くわ



第150号

平成29年
10月26日発行



彼岸花

撮影者：横山晴美さん

9 月 定例会

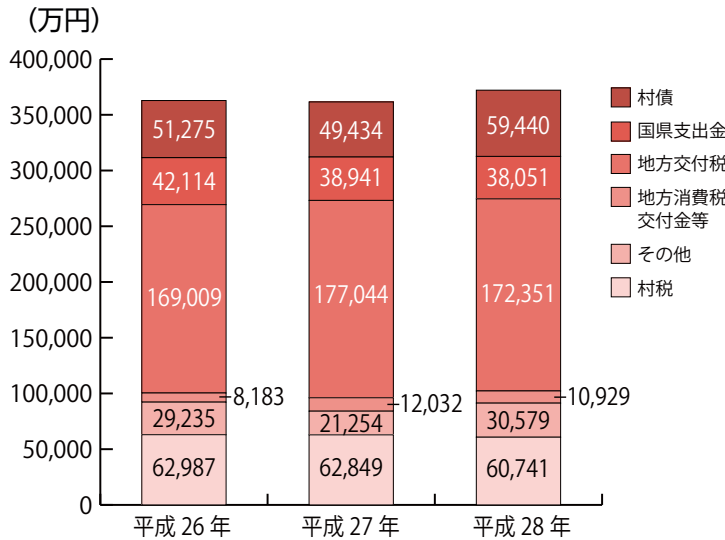
9月定例会は、9月14日から28日までの15日間の会期で開かれ、諸報告の後、請願1件、陳情2件を審議。一般質問（5名7件）が行われた。村長提出議案（条例改正等5件、補正予算2件、請負契約1件）、平成28年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算認定が上程され、慎重審議し可決した。又、教育委員及び人権擁護委員の任命について原案に同意した。



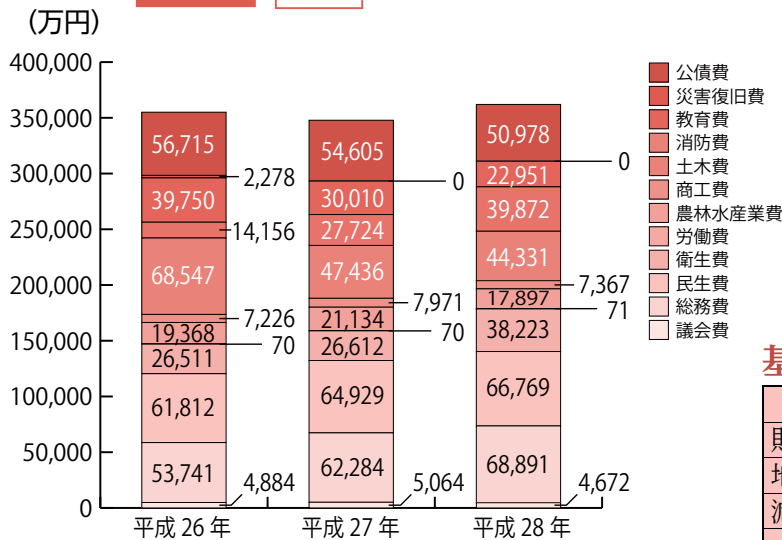
防災行政無線デジタル化 ホケ山中継局



須原駅公衆トイレ



一般会計 歳入 37億2,091万円
歳出 36億2,022万円



基金年度末残高

基金名	残高
財政調整基金	9億3,887万円
地域振興基金	3,226万円
減債基金	112万円
土地開発基金	1,770万円
地域福祉基金	5,525万円
ふるさと農村活性化基金	400万円
むらづくり基金	94万円
庁舎建設基金	8億2,300万円
補助事業等つなぎ資金貸付基金	500万円
育英基金	1,669万円
村営水道基金	3,052万円
国民健康保険支払準備基金	3,007万円
農業集落排水基金	1,038万円
公共下水道基金	888万円

特別会計決算額

会計	歳入総額	歳出総額
村営水道事業	2億4,437万円	2億4,328万円
国民健康保険事業	4億7,020万円	4億5,511万円
農業集落排水事業	1億 243万円	1億 12万円
公共下水道事業	8,991万円	8,919万円
後期高齢者医療事業	6,467万円	6,467万円

平成28年度決算を認定

大型事業の実施で村債は増加

新ごみ処理施設建設負担金・防災行政無線デジタル化など

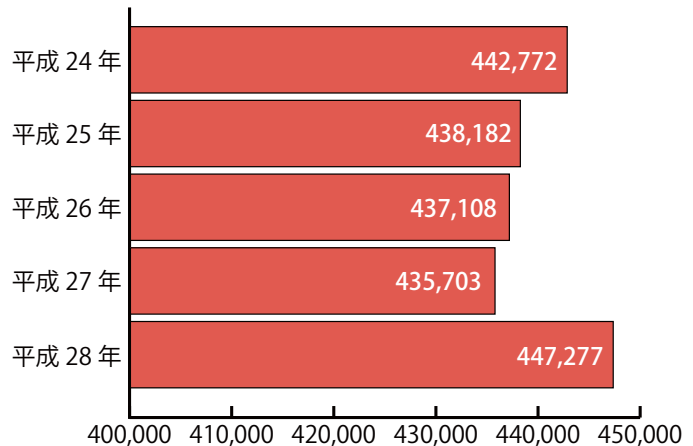
平成28年度 財政健全化審査は「適正」

区分 年度	平成 28年度	平成 27年度
実質赤字比率	— (15.00)	— (15.00)
連結実質赤字比率	— (20.00)	— (20.00)
実質公債費比率	9.3 (25.0)	9.6 (25.0)
将来負担比率	39.4 (350.0)	49.8 (350.0)

※—は黒字のため数字記載なし。
()は、早期健全化基準

村債年度末残高

(単位：万円)



決算審議

税徴収状況

Q 6件を滞納整理機構に移管している。例年より多いが理由は。

A 基本的に50万円以上の大口滞納者で督促に応じない案件を移管している。

Q 費用対効果もあるが、村は自主努力で回収することも必要と思うが。

A 税の公平性から考えると費用対効果は考えるべきではないと考える。村としても、昨年度、中京圏方面に向き7件の滞納整理を実施した。

Q 法人税が減り、固定資産税が増えた要因は。

A 法人税は、村の大手企業の減収が主だが、会社が連結決算を行ったため、村内事業者にとっては思ったほど営業利益が上がっていない

いのである。

固定資産税は、全戸調査結果に基づき増となった。

健康増進

Q 健康診断受診者数少ない。受診によって病気の早期発見、早期予防に繋がると思うが村の対応は。

A 受診は対象者全員を目指しているが難しい面もある、今後も広報等を利用して呼びかけていく。

森林整備

Q 村の貴重な財産である森林の整備を森林税が施行されている今、推進していかねばならないと思うがどう考えるか。

A 森林税が5年延長になり交付金も増えると思われる。森林整備は推し進めていく。ただ森林組合だけでは対応できない事が考えられるので村内建設業者にもお願いして進めて

いく。これにより雇用の機会も増えると考え

財政運営

Q 財政が厳しい中、庁舎建設、大桑橋架け替えと大型工事が控えているが今後健全財政に向けてどう取り組むか。

A 木曽広域でも大きな事業が控えている。住民に納得のいく財政運営に取り組みたい。



新ごみ処理施設

決算審査 意見書所見(抜粋)



奥田代表監査委員

平成28年度決算審査は、審査該当事業352件のうち、書類51件、現地15件、出先機関5か所について実施し、審査を行った。事業の執行について、特に留意改善を要すると認められる事項は次のとおり。

主要事業、委託事業 地方公会計制度

平成29年度に地方公会計制度に基づく財政状況が公表される。制度の目的である効率的で適正な財政運営に努めることを期待する。

防災行政無線 デジタル化整備事業

同報系無線が、25台設置され、災害時の通信・放送手段となる。取り扱いの訓練を行い、災害時において確実に活用できるよう願います。

森林づくり 推進支援金事業

確認手続きの不備で個人所有の立木を一部誤って伐採した。正確な事務事業の遂行とチェック機能を果たすことを願います。

税等の滞納状況

滞納者数は、村民税他、計122人で、前年度対比19人の減少となった。未収金は、財政運営に影響を及ぼすだけでなく、費用負担の公平性の観点からも見過ごすことのできない問題であるので、全庁的な収納対策に取

り組まれない。

出先機関の状況

以下の点について要望した。

あてら荘

平成28年度から新たに(株)塚原緑地研究所が指定管理者となった。

平成27年度との各業務の比較では、宿泊、入浴は増加したものの宴会昼食等は、1610人減少した。分析をして次年度の業務に活かすよう指導をお願いする。

社会福祉協議会

村防災計画に基づき防災マニュアルを策定するよう検討をお願いする。

小中学校

建設から15年以上が経過し、今後、維持管理費の増加が予想される。急激な財政負担を避けるため、計画的な

管理に努められたい。

むすび

平成28年度の施策、決算状況、基金残高等の審査の結果、一般会計、特別会計ともに予算に対して適正に執行され各事業が円滑に推移されていると判断した。

今後、新庁舎建設、大桑橋整備工事等大きな財政負担を伴う事業が本格化する。財政の健全性を堅持しながら総合計画に基づく事業実施をお願いする。

不透明な経済情勢の中、これからの行政運営は、村税をはじめとした自主財源の確保や国・県支出金及び有利な起債の活用を図るとともに、歳出の見直しを進め、効果的で効率的な予算執行が求められる。職員一人ひとりが常にコスト意識を持って、行財政運営に

鋭意努力されることを願います。

監査委員 奥田 斗生
同 水野 進

補正予算審議

グループホーム 須原地区に 決まる

普通交付税

Q 額が確定し、前年度対比約6400万円の減額となったが理由は。

A 主な要因は、前年度公債費が約1000万円減額となった事。又、税収増で基準財政収入額が増額となった事による。

須原親睦会館

Q 須原親睦会館解体に伴う残存施設修繕費用130万円が計上されている。解体後の跡

地利用と管理は。

A 跡地利用は、今後検討していく。草刈等管理は村が対応する。

グループホーム

Q 障がい者グループホームが須原地区に建設されることとなったが、経過と住民との交流スペースの確保は。

A 木曽福祉事業協会が来年度建設する予定である。交流スペースは、用地の面積等により判断される。村としては要望している。

福祉医療費 窓口無料化

Q 窓口無料化に伴う

こんなことが決まりました

子どもの福祉医療費窓口無料化 来年8月から

報告

●議会の委任による

専決処分

道路の瑕疵^{かし}による損害賠償額の決定

条例

●公告式条例の一部改正

須原地区の掲示場を、須原親睦会館の解体に伴い須原地区館に移設

●福祉医療費給付金

条例の一部改正

県の福祉医療費給付事業の見直しに伴う現物給付方式の導入に関する改正

●消防団条例の一部改正

消防団員の減少により、定員を200人から180人に改正

請負契約

●川北1号線落石防止

工事請負契約

契約方法

指名競争入札

契約金額

6804万円

契約の相手方

大桑村野尻
奥田工業株式会社

計画変更

●過疎地域自立促進

計画の変更
障害者グループホーム建設地造成等事業の追加等

人事

●教育委員会委員の任命

大桑村野尻
水口 泰治 氏
同氏の任命に全会一致で同意

●人権擁護委員の推薦

大桑村須原
白木 正 氏
同氏の推薦に全会一致で同意

請願

●日本政府に「核兵器禁止条約」への賛同と批准を求める意見書の提

出に関する請願
請願者
新日本婦人の会
木曾支部 生路 光子
紹介議員
瓜尾美佐子
沼 友行
古畑 昌夫

結果

賛成多数採択

陳情

●全国森林環境税の創設に関する意見書採択に関する陳情

陳情者

全国森林環境税創設促進議員連盟
会長 板垣 一徳

結果

全会一致採択

●私立高校に対する公費助成をお願いする公

費助成をお願いする公
陳情書
陳情者
中信地区私学助成推進協議会
会長 手塚 貴雄

結果

全会一致採択

結果

結果

全会一致採択

会計別補正状況

(単位：万円)

会計	補正額	補正後の予算額	主 内 容	
一般会計	2,595	378,166	障がい者福祉事業追加	323
			須原親睦会館解体	129
			村単道路維持事業	695
			(蛇抜沢土砂流出に伴う排水溝整備)	
			住宅修繕追加	292
			村道勝井坂線法面復旧工事	275
国民健康保険事業特別会計	682	43,745	国庫負担金返還	630

システム改修経費が計上されている。高校生まで窓口無料化にする対応か。

●県が来年8月から実施するスケジュールに合わせシステム改修を行う。対象は県に合

Q 高校生まで窓口無料化を実施する考えは。A 高校生まで対象を拡大するかは、来年度以降検討したい。

わせ中学生までとするもの。

庁舎建設の動き

実施設計に向け協議

庁舎建設特別委員会 9月4日

多目的ホール天井高

多目的ホールは、会議室使用の場合とホールとして広く使用する場合があります、会議室として仕切って使用する場合は高さを必要としないが、コンサート等広い空間を必要とする場合はできるだけ天井は高い方が良いといった意見が出されている。天井を高くする場合、会議室として使用する時の仕切りの仕様が変

更となるため、本体構造に影響し建設コストも上がる。設計士の意見を参考に検討し、野尻地区館、須原地区館の天井高と同じ4メートル程度が妥当との報告があった。

なお、音響効果についても、会議室使用とホール使用では音響仕様も異なるため、両方に効果的な音響にしていくことが必要である。

建設費

基本設計を各委員会で検討してきたが、実施設計においても工夫できる範囲で最善を尽くすべきだとの意見が出された。

建設費の今後の見通しについて、伊藤建築設計事務所に意見を伺ったところ、オリンピックで資材等の高騰が見込まれ、不安要素はあると答えた。

敷地内道路整備

新庁舎の敷地内道路整備については、庁舎建設に合わせて整備するよう調整される。

(報告者 下起幸二)



一般質問

議員5人が

村政を問う

9月定例会の一般質問は14日に5名7件を行いました。
次ページより、質問議員が要約したものを掲載します。

一般質問とは

一般質問は、村が行うすべての事務や事業に関して何でも質問できる大事な議員活動の場です。

年4回の定例会のみで、臨時会ではできません。

・質問時間は40分

大桑村議会では、議員が質問できる時間は答弁を含め1人40分以内です。

・一問一答方式

質問は、一つ質問をして一つの回答を得る一問一答方式です。

この方法は、より問題を深められる方法といわれています。

・事前通告

質問したい議員には、前もって質問内容を記した事前通告書の提出を義務付けています。



木戸 勘一 議員

道の駅で村の情報発信を 設置を検討したい

◆ 今後の道の駅は

Q 平成元年にオープンした道の駅の耐震性は。

A 昭和56年の耐震基準に合格している。老朽化に対して検討課題はある。



道の駅2階会議室

Q 急傾斜の屋根の雪害が問題とされているが対応は。

A 特殊な屋根であり、対策は難しい。除雪に関しては委託業者と対応している。

Q 2階会議室の利用状況と今後の活用方法

A は。会議室として定期的な利用があり、今後会議室として利用する。

Q 道の駅の活用方法として、ウッドスタート事業をピールするコーナーを設置したらどうか。

A 指定管理者との相談だが、設置等を検討することはできる。

Q 移住促進事業のピールとして「空き家情報」「おためし居住体験」の情報を発信するコーナーを設置できないか。

A スペースが確保できれば設置できる。

◆ 地域文化を
地域おこし協力隊で

Q 地域文化の新しい力として協力隊を採用したかどうか。たとえば、ヒノキを奏でる里

づくり事業を発信する人材として採用することはできないか。

A 協力隊は3年間の採用で、その後の移住定住が基本であり、これらを考え採用を検討している。ヒノキを奏でる里づくり事業だけ

で協力隊を採用することとは考えていない。

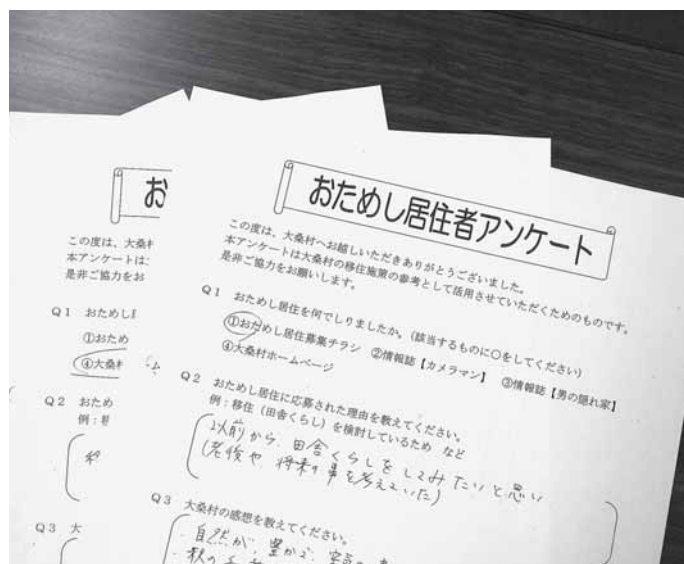


道の駅展示コーナー



鈴木 武 議員

将来を見据えた土地確保を 前向きに取り組みたい



おためし居住者アンケートを実施

おためし居住事業
評価は

Q 人口対策の一つとして、おためし居住事業を実施して3年目を迎えた。どのような成果を得られたか評価内容を問う。

A 数字的には少ない利用者と感じている。現在まで、移住・定住は無い状態であるが、

情報発信はできたと評価している。

意見 体験者と村の関わりを保つ方法として、ふるさと会員やふるさと納税への参加を促すことを検討されたい。

ふるさと納税で
自主財源確保を

Q 安定的な事業を行う上で、自主財源の確保は重要である。当村

のふるさと納税の基金は、20年度から28年度までの9年間で、94万円である。他の自治体のように、返礼品を工夫し、財源確保の一環として力を入れるべきではないか。

A ふるさと納税者には、一割程度の特産品を返礼として送っている。他の自治体のように、寄付金に応じた返礼品は考えていない。これまで通り、村を応援したいといった、本来の目的に沿った善意の寄付として位置付けていきたい。

空き家・
空き地の活用を

Q 村と共に企業が継続するためには、人口対策は最重要課題である。平成52年度の人口推計値2760人を目指す、定住化を押し進めるためには空き家や空き地の活用は重要で



住宅について特集した広報おおくわ9月号

A ある。空き家情報バンク事業は、情報提供するだけでなく村が仲介にも関わりを持つ必要があるのでないか。また空き地についても、民有地も含めた中で宅地造成や消防施設等広域連合に係わる施設整備に向けた土地活用に取り組む、村の活性化につなげてはいかかがか。

する空き家情報バンクに登録している。又、全国版空き家情報バンクを開設する動きがあり、これに登録することを検討している。空き地の活用については、村所有の土地は要望があり、可能であれば貸付や払い下げをおこなう。民有地については、将来的に必要であれば、買取りや寄付も含め対応したい。



瓜尾美佐子 議員

高齢者の外出支援の充実を 公共交通の改善は総合的に

Q 高齢化が進む中、高齢者が元気で安心して生活できる様に、通院や買物など外出時の交通手段の確保と利便性の向上は大事な村の施策である。現在、村の高齢者の外出支援の現状は。

A 寝たきりなどの方の移送としての福祉有償移送サービスと、福祉タクシー乗車券交付事業を行っている。

Q 福祉タクシーは対象者の要綱変更に伴い、昨年度に比べ、今年度は半数以下に減っている。福祉タクシーの対象から外れた高齢者にとって現状の公共交通は利用しにくいとの声



乗合タクシーを利用する村民

Q 高齢者ドライバーによる交通事故が社会問題となる中、自主返納する人が増加している。また、自主返納を後押しする行政などの支援も広がり、郡内でも木曽町・南木曽町・木祖村が取り組んでいる。村としての考えは。

A 村としても取り組んでいきたい。

Q 自主返納にあたり、村の公共交通の改善も求められる。地域公共交通の課題と今後の見通しはどうか。



桑華祭（9月30日中学校）

がある。高齢者の外出支援として様々な取り組みをしている自治体もある。対応を求める。

A 様々な提案をしてもらったので検討したい。

Q 高齢者ドライバーによる交通事故が社会問題となる中、自主返納する人が増加している。また、自主返納を後押しする行政などの支援も広がり、郡内でも木曽町・南木曽町・木祖村が取り組んでいる。村としての考えは。

A 村としても取り組んでいきたい。

Q 医療費窓口無料化

て、総合的に検討していく。

Q 長野県ではようやく中学卒業まで医療費の窓口無料化を決定した。実施は来年度8月以降、受益者負担500円はそのまま残った。村では高校卒業まで医療費の無料化を行っている。高校卒業まで窓口無料化を広げ、完全無料化になるよう受益者負担をなくせないか。

A 今回は県の動きに合わせたものだが、今後、検討する。

林業などで木曾の真の再生を 森林組合や事業者と検討したい



古畑 昌夫 議員



全国森林環境税創設促進議員連盟総会 7月20日

Q 「地方創生」の関連事業と財政規模について説明願いたい。

A (資料で平成27年度から29年度までの内容を説明)

Q それにより、村の総合計画に基づく事業に上乗せされた事業やメリットはあるか。

A 地方創生で変更になったものはないが、

定住・雇用促進、子育て支援などを重視して進めている。

Q 新聞報道にあった公共施設の削減について村の考えは。

A 公共施設の管理計画は昨年策定したが、個別の計画はこれから検討する。

Q 国の考えは、「地方再生」ではなく、

「国家の形を変える」ものだと言っている。林業など木曾や村の「真の再生」のための考えは。

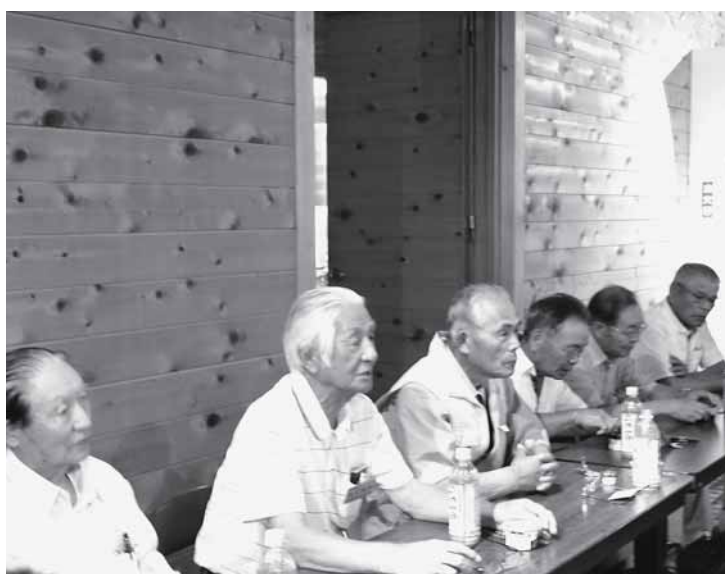
A 森林資源の有効活用については、木曾地域振興局(前地方事務所)と連携して検討しているが、林業の振興については森林組合や事業者などと積極的に検討していきたい。

Q 信大農学部名誉教授の野口俊邦さんは、「森林資源が全国で49億mもあるのに、国の林業予算は4千億円しかない。せめて国家予算の1%(1兆円)かければ再生できる」と述べている。

A 国と県の「森林環境税」が導入されても、今の村の体勢では消化できない。

国保税の抑制を

Q 大桑村の高齢者世帯の実態は。



傘寿座談会 (7月25日資料館)

A 高齢化率は9月現在41・02%、高齢者だけの世帯は37・8%となっている。

Q 木曾の医療や介護の現状をどうみるか。

A 医師の確保を関係機関に訴えているが、医療、介護とも大変になると認識している。

Q 国保事業の広域化にむけて、2月に国保

税(納付金)の試算が示され、7月に第3回の試算がされたと報道されているがどうか。

A 今回の国の試算を受け、10月までに県から各市町村の納付額が示される予定。

意見 一般会計の繰り入れもして、国保税を抑制してほしい。



水野 進 議員

これからの公共施設の維持管理は 総量規制による適正管理を推進

Q 公共施設の調査、分析作業等の進捗は、
A 長期的施設管理計画を3月に公表した。
Q その概要は、
A 総床面積5万290㎡。学校、保育施設と社会教育、公営住宅、公共サービス施設等で各々3分の1。建築年度では、高度成長期整

備の老朽施設より平成元年以降に整備した学校、保育園、地区・分館等の新施設が多い。計画期間40年、耐用年数60年、30年経過時に大規模修繕として更新推計を試算すると、今後40年間の補修経費は約200億円、年約5億円となる。



中学校施設の現地監査

Q 使用不適施設は、
A 老朽化、耐震未措置はあるが不適はない。
Q 課題や問題点は、
A 「大規模改修時の改修、縮小、廃止の検討」、「事後処理型から予防保全型の維持管理への転換による経費の削減・平準化」、「人口減少の将来需要への反映による、施設総量の適正化」である。
Q 小・中学校舎は、生徒最多時代の施設を維持・使用している。一方で、小中を合わせた9年制の「義務教育学校化」が行われ始めている。一学年ークラスの常態化を考えると、バス・電通の実績、交流機会拡大、カリキュラム構成上の柔軟性・効率性確保、施設の有効活用等の効果が期待できる。同一施設で9年間続くことでのマイナスもあるが、今後、過疎地域での現実



小学校教室

的課題になると思うがどう考えるか。
A 「義務教育学校」は、全国で48校、県内で2校ある。9年間を通じた学習指導や教職員間の意思疎通が図られ易く、子供たちの世代間交流も図られるメリットと、保育、小中と同一施設で育って行く成長段階でのメリハリや環境変化への対

応機会が乏しいデメリットがある。今後、大桑村も、一学年20名前後で推移すると思われる。小中連携を含め、より良い教育環境の在り方を探って行きたい。
Q 今後の施設管理課題への対応は。
A 公共施設等総合管理計画を基本として施設別計画を策定し、適切な管理を進めたい。

経済建設 常任委員会

8月17日開催

- 阿寺溪谷大型バス通行規制の状況を視察
- 下在蛇抜沢砂防堰堤工事状況を視察
- 大桑橋工事日程を確認
- 上下水道料金の検討

阿寺溪谷大型バス 通行規制の状況

大型バスの通行規制は、7月22日～8月27日の38日間実施。現在のところ規制に伴うトラブルはない。

規制方法は、溪谷入口に警備員を配置し入口駐車場に停車させ乗客を降ろした後、バスはサンシャイン下の第3駐車場に駐車。8月10日までの大型バスの駐車は10台。

阿寺溪谷の「意見を聴く会」は、9人の応募があり、8月27日に第1回の会議を開催。

下在蛇抜沢 砂防堰堤工事状況

砂防堰堤工事は、3年間で、堰堤工事と流路工事を行う。

平成25年にも同じ状況で土砂流出があり、委員からは、林道の改良も必要。国道沿いの工事を優先して行う必

要がある等の意見が出された。村としても、国県に相談をしているとのことである。

大桑橋工事日程

仮橋設置工事は、本年度予定通り着工。県事業による用地測量が始まり、用地補償についても個々の状況に合わせて随時実施していく。

上下水道料金 改定の検討

昨年度策定した「上下水道経営戦略」に沿って、給水人口の減少見込みによる経営悪化を防ぐため、料金の値上げについて検討を始める。

所感

阿寺溪谷の課題に対しては今後、「意見を聴く会」の検討が待たれる。

下在蛇抜沢の災害は、前回と同じ原因で発生している。早期に改良等ができるよう国等に要望していきたい。下水道料金の改定については、委員会において慎重審議していく。



蛇抜沢砂防堰堤工事状況を視察

全員協議会

9月19日開催

木曽地域ケーブルネット トワークのFTTH化 (光化)事業

現在木曽広域連合で検討が始められた事業について、木曽広域情報センター尾崎所長の出席を求め、勉強会を行った。

FTTH化が なぜ必要か

1 老朽化対策

ケーブルテレビ網の整備から10年が経過し、劣化による故障が増加。又、現在はFTTH化が主流となり、木曽地域で現在使用している同軸ケーブルメーカーの撤退が相次ぎ、故障した場合の代替え機器が無くなる。

2 放送の高度化

放送技術の進展に重要な役割を果たしてきたオリンピック。20

20年の東京オリンピックまでに4K、8Kテレビの実用放送が始まることへの対応。

概算費用

大桑村負担は約5億円

撤去費用も含め費用は約42億円。大桑村の負担は、約5億円となる。

なお、事業費の2分の1の補助金制度があるが、平成32年度までの期間となっている。

情報環境を確保することは大切なことであるが、現在、木曽広域連合では文化公園の改修、木曽寮の移転等大型事業の検討がされており、更なる財政負担となるため、慎重な議論が必要である。

議員発議

道路整備予算国に求める

道路整備予算の拡充及び道路整備事業に係る補助率等の嵩上げ措置の継続等を求める意見書の提出について

提出者 沼 友行

賛成者 下起 幸一

鈴木 武

大前今朝男

全会一致で採択

要望趣旨

1 地方創生推進に向け道路整備に必要な予算の拡充を図ること。

2 道路財特法の補助率等の嵩上げ措置について平成30年度以降も継続するとともに、地方創生推進のため真に必要な道路整備について特別措置の拡充を図ること。



村道大島線

木曽広域連合議会報告 第3回定例会（8月31日開催）

決算認定	平成28年度木曽広域連合一般会計決算認定について 平成28年度広域連合介護保険特別会計決算認定について	認定
補正予算	平成29年度木曽広域連合一般会計補正予算（第2号） 平成29年度木曽広域連合介護保険特別会計補正予算（第2号）	可決
条例改正	火葬場の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決

平成28年度木曽広域連合一般会計決算

歳入総額

40億9,626万円

歳出総額

40億2,500万円

平成28年度広域連合介護保険特別会計決算

歳入総額

40億3,181万円

歳出総額

39億 507万円

平成29年度木曽広域連合一般会計補正予算（第2号）

補正額

888万円

補正後の額

48億9,642万円

平成29年度木曽広域連合介護保険特別会計補正予算（第2号）

補正額

1億4,120万円

補正後の額

44億6,550万円

新ごみ焼却場 平成30年4月稼働

- ・平成28年度一般会計歳入歳出決算は、前年度比較約11億円の増となった。主たる要因は、ごみ焼却施設整備工事費10億円。工事は順調に進み、30年4月から稼働開始予定。
- ・介護保険特別会計は、前年度より約2%増。歳出のほとんどは経常的経費である保険給付費35億円。
- ・条例改正は、使用料が決まっていなかった「身体の一部」「改葬」料金7,000円を追加するもの。
- ・一般会計補正予算は、人件費・情報事業の電柱移転費用・木曽寮の特殊浴槽入れ替え等約900万円を追加した。
- ・介護保険特別会計補正予算は、支払準備基金への積立、前年度事業の清算による返還金等約1億4,000万円を追加した。

▼全員協議会

木曽広域がおこなっているテレビ放送やIP電話等の情報電波の光化（F T T H）他、担当者より説明を受け協議した。（報告者 鈴木 武）

松塩筑木曾 老人福祉施設組合

8月臨時会

◎8月7日開催

主な内容は、地方公務員法等の一部改正に伴う条例の一部改正案件が3件、補正予算案1件。

補正予算は、平成29年度介護報酬改定によるサービス収入の増加額4220万円を原資とし、当組合の運営している17施設に於ける民生費（主に人件費）の増加に当て補正後の歳入歳出額をそれぞれ44億9820万円とするもの。全議案とも審議のうえ可決した。

▼全員協議会 木曽あすなろ荘

入所定員減に

介護保険制度改正に伴う待機者の減少並びに、介護職員不足の現状を踏まえ、平成30年度に定員を90人から80人に変更する案が示された。第7期介護保険事業計画で協議される。

（報告者 細田光一）

木曽郡町村議員総会

事業用太陽光発電施設の 課題を提起

8月1日
木曽町文化交流センター



議案提案する大前議員

木曽の地域課題を協議

木曽郡町村議員総会は、8月1日に木曽町文化交流センターで総会と研修会が行われた。総会では、各町村から地域課題となつている議案が提出され、提

案の後、全議案が決議され、関係機関へ要望することを決めた。

大桑村では、「再生可能エネルギー発電施設設置に係るガイドラインの整備について」大前議員が提案説明を行った。

平成24年7月に再生可能エネルギー買い取り制度が開始されてから、県内各地において事業用太陽光発電施設の設置が増加しており、最近では、大桑村をはじめとし、木曽地域の急峻な山林においても広範囲に立木を伐採した開発行為が行われており、景観・環境への影響や土石流災害が心配され問題となつていくことを踏まえて、

①適正な導入が図られるよう、林地開発や砂防指定地内行為等の許可基準を地域の実情に合わせ整備すること。



木曽町文化交流センター

木曽の文化と将来

②景観や環境に影響を与える開発には規制が必要であり、山岳観光を特色とする長野県において、市町村の規制根拠となるガイドラインの整備を図ることが必要であると提案した。

研修会は、木曽地域の観光をテーマに、太田副知事と笹本県立歴史館長による講演・対談が行われた。

木曽は、伝統文化や自然、食文化など誇れるものが豊富にある。これらを次の世代につなげるため、皆で汗をかこうと呼びかけた。

決議事項

- 観光業の再生
- 教育の中核を担う教員配置
- 地域医療体制の維持・充実
- 国有林野利活用の推進
- 野生鳥獣被害対策の推進
- 再生可能エネルギー発電施設にかかるガイドライン整備
- 主要地方道路の整備促進



太田副知事と笹本県立歴史館館長による対談

議会活動日誌

6月 活動内容

- 13日 6月定例会
議会報編集特別委員会
- 16日 6月定例会
- 19日 社会福祉協議会評議員会
- 26日 木曽郡町村議会議長会
- 27日 中部地方整備局懇談会

7月 活動内容

- 6日 議会報編集特別委員会
- 7日 木曽南部直轄砂防推進協議会
- 12日 7月臨時会
議会報編集特別委員会
- 13日 木曽郡町村議会議長会
- 19日 長野県町村議会議員研修会（長野市）
全国森林環境税促進議員連盟総会（～22日 高知）
- 21日 南部国道連絡会総会（伊那市）
村長杯野球大会開会式
- 24日 県際交流協議会総会
木曽消防協会激励会

- 26日 木曽南部木曽川右岸道路整備促進期成同盟会総会
- 27日 蘇南高校地元町村協議会
- 30日 県消防ポンプ操法大会（中野市）

8月 活動内容

- 1日 木曽郡町村議員総会
- 4日 県治水砂防協会総会（長野市）
- 7日 森林・林業・林産業活性化促進議員連盟総会（安曇野市）
松塩筑木曾老人福祉施設組合議会 8月臨時会
- 8日 愛知中部水道企業団議会議員交流会
- 9日 県境近隣市町村議会議長会議（中津川市）
- 14日 成人式
- 17日 経済建設常任委員会
- 21日 木曽広域議会 福祉環境常任委員会
- 22日 木曽広域議会 議会運営委員会・総務常任委員会・経済観光常任委員会

- 25日 長野県町村監査委員研修会（長野市）
- 26日 砂防講演会
- 30日 木曽南部土砂防災ネットワーク議員連盟役員会
- 31日 木曽広域連合第3回定例会・全員協議会

9月 活動内容

- 4日 庁舎建設特別委員会
議会運営委員会
- 5日 防災訓練（須原地区館）
木曽広域経済観光常任委員会視察（～6日 千葉県）
- 6日 敬老会
- 8日 土砂防災対策実務者講習会（東京）



行政報告

木曽路の眺望景観整備基本方針の推進

木曽地域の美しい眺望や歴史的な景観を地域ぐるみで守ろうと、「木曽路眺望景観整備基本方針」を定めた。

雑木や藪で景観が損なわれているなどの課題を地域全体で共有し整備する。

7月26日の豪雨災害

7月26日、18時33分洪水警報発令、19時10分土砂災害警戒情報発令。20時頃下在蛇抜沢上流部から堆積していた土砂、木枝が一気に流出し、国道暗渠を閉塞、民家へ土砂が流れ込んだ。

阿寺溪谷キャンプ場では、村道阿寺川線の土砂崩れによりキャンブ客25人が一時取り残された。

そのほか村道下在勝井坂線法面崩落、林道の洗掘が見られた。

蛇抜沢は、直轄砂防工事が実施されているが、今回の災害を受け、流木等防止柵設置関係と村道下在勝井坂線法面崩落工事関係の補正予算を計上した。

11月から

広域連携バス試験運行

11月、12月に広域幹線バスの試験運行を行う。高齢化による交通弱者の増加で、公共交通の維持や確保が各町村の共通課題となる中、広域路線の共同運行による効率化や利便性の向上を目指し、広域路線のモデル的な運行形態の設定と試験運行を行う。

グループホーム

須原本町地区に選定

障がい者グループホームが須原本町地区に設置箇所が選定された。

候補地の選定は、700㎡以上の敷地面積の確保や公共施設、公

共交通機関、幹線道路からのアクセスの良い場所。生活の利便性を考慮し、商店が近くにある場所。また、社会参加に向け、地域と交流のできる集落を選定するなどの基準を設け選定した。

阿寺溪谷意見を聴く会11月に提言まとめる

8月27日、第1回の会議が開催された。第2回を9月末開催。10月に中間の取りまとめ。11月予定の第3回委員会で提言を取りまとめる。

村事業

74パーセントが発注

8月末現在、事業件数ベースで74%、予算ベースで84%。大桑橋整備工事、村道川北一号線落石防止工事、大桑駅前公衆トイレ建築などが着工している。

サークル紹介 第15回

茶道裏千家寺島社中

一期一会を大切に

日本の伝統文化の一つである茶道の裏千家という流派に属して活動しています。

月に2回ほどのお稽古では、適度な緊張感を伴う凛とした雰囲気の中、時にはお笑いお茶道場と化しながら、和気あいあいと楽しい時が流れていきます。

対外的な活動としては夜桜祭り、森の里の秋まつりなどの村内のイベント参加と、小学校の茶道クラブ、中学校の桑華祭講座、高校の茶道同好会での指導、県内外で開催されるお茶会への参加があります。

特に森の里の秋まつりでは、指導をした子供達が野点の会場に訪れてお運びなどのお手

伝いをしてくれたり、お互いに教え合ったりする姿が見られ、多少なりとも伝えることができたことをうれしく思います。

茶道には様々な作法があり堅苦しいものと思われがちですが、その時その場所に会した人達が、お互いを尊重し、相手の気持ちを思いやって、もてなし、もてなされる、そこに生まれるハーモニーこそが一期一会。

どうぞ、お気軽に野点席にお越し下さい。茶道に興味のある方は是非お稽古にも参加してみてください。初心者大歓迎です。

(代表 小島佳代子)



村への思い③

消防団員としての誇りを胸に
村の安心・安全を守ります

阿寺 久野哲也さん

はじめに、7月30日県消防ポンプ操法大会に出場し無事終

えられたことに対して、全力のサポートをもって支援してくださった団長はじめ全消防団員の皆様、また、沢山の激励で応援してくださった村民の皆様に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

消防団に入団し1年、初めてのポンプ操法でまさか県大会に出場できると思っていなかったのが、本当に貴重な体験をさせていただいたと感じています。4人が全力で作上げたあの一瞬は、この先一生刻まれる熱い思い出となりました。今回の体験を一つの糧として消防団員としての自覚と誇りを胸に、今後も大桑村の安心・安全のため、消防活動に尽力してまいります。



表紙撮影

横山晴美さん(須原茶屋町)

▼彼岸花

9月中頃、スポーツ公園の木曽川沿いの歩

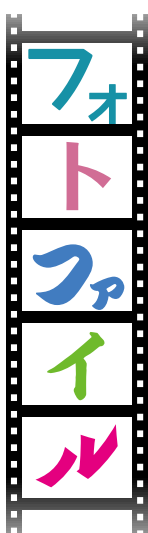
道に、彼岸花がたくさん咲いていました。赤い根茎が強いので群生に

しか見たことがなかった。赤い根茎が強いので群生に

昔は毒を抜き、最後に食べる非常食だった。そう、役に立つ花

だったので調べてみると、白や黄色、ピンクもある

そうです。毒がある



編集後記

▼この度、150号を迎える事ができました。今後、皆様に愛される議会報を目指して、頑張りますのでよろしくお願いいたします。

議会報編集特別委員
委員長 木戸 勘一
副委員長 瓜尾美佐子
委員 沼 友行
水野 進
大前今朝男